

本日はお忙しい中、また足元が悪いい中、故海老沢敏夫さんを偲ぶ会にご臨席いただきありがとうございます。

先週に予定しておりましたが、大雪で今日に延期となりました。

今日も天気がよくないところを見ると、多分に海老沢さんがお別れを嫌がっているせいと思われる。

海老沢敏夫さんは、昨年10月24日に日大駿河台病院に入院され肝臓癌の治療を受けておられたのですが、2か月後の12月24日にお亡くなりになり、26日に茶毘に付され家族葬が営まれました。あまりにも早い展開で驚いた次第です。

海老沢さんは「そだつ会」会長として会運営に大変ご尽力いただき、またソマール在職中も「会長」の愛称でみんなに愛された人でありますことから、所縁のある方にお集まりいただき個人を偲びお送りしたいと、本日の「海老沢さんを偲ぶ会」を設けさせていただいた次第でございます。

海老沢さんは「そだつ会」会長として従来の「年末懇親会」の行事に加え「春の花見」「シルバーの遠足」など会員が年間を通して楽しめる新しいイベントを定着させるなど大きなお仕事をなされました。また、会長交代の時に、「これからも花見や遠足」の企画担当としてフォローするのでモリグチは会長の仕事に専念しろなどとおっしゃられるなど、引き続いて「そだつ会」の運営に携わりたいという強い思いを持っていたようで惜しい人をなくしました。

海老沢さん、あなたの「そだつ会」よせていた思いを大切に、これからも「そだつ会」の持続発展に力いっぱい頑張りますこととお誓い申し上げます。

海老沢さんも明るい集まりのほうがお好みかと思いますので、陽気とまでいなくてもせいぜい明るい「偲ぶ会」でお送りしたいと思います、皆さんのお心を受け取ってください。

なお、今日の会費の一部からお花代として1万円をご親族の方にお送りさせていただきますことと、ご親族で海老沢さんの兄弟にあたる海老沢明雄・文雄様および高橋 京子様から偲ぶ会に3万円のご厚志をいただきましたことをご報告させていただきます。

以上でご挨拶とさせていただきます。

2014年2月15日
そだつ会会長 森口和總

海老沢敏夫さんを偲んで

海老沢敏夫さん、もうすぐで半世紀になろうという付き合いを前に、あなた、いや会長はあっけなく勝手に逝ってしまいました、とても残念でなりません。

今、在りし日の貴君との思い出はつきません、北海道から鹿児島まで数えきれないぐらいの旅行、飲みすぎて酔いつぶれた元氣だったころが楽しく思い出されます。

貴方は多くの趣味を持っていました落語のテープ、CDがたくさんありました。

私との共通の収集趣味は1974年世界最大の20バルボア銀貨からはじまりました。

1月13日あなたの親族3名とこの会の発起人4名であなたのマンションの整理をしました、あなたの収集品のコケシ、根付、棒ネクタイ、コイン、メダル、切手などが多数ありました。貴方はとてもシャイでデリケートな性格でした。

特徴のある体格のあなたが好んだ場所は越谷の大吉の喫茶店OBでゆとりのある一人用の椅子がおきにいりでした、ゆったりモカで寛いでいたことが思い出されます。

最後に、海老沢さんを偲んで、大伴家持のうた

うらうらに照れるはるひに ひばりあがり

ころかなしも ひとりしおもえば

人の世のはかなさ、悲しさを感じさせる万葉の歌を、はなむけとして、私の惜別の言葉とさせていただきます。海老沢会長長いことごろうさまでした。

海老沢さんのご親族から「そだつ会 海老沢さんを偲ぶ会」に寄せられた言葉

拝啓

本日はお忙しい中、兄・敏夫の為に、このような会を催しいただきありがとうございます。

本来であればお伺いし、皆様にご挨拶しなければならない処と存じますが、98歳の母の介護があり残念ながら参加させて戴く事ができず、誠に申し訳なく思っております。

昨年の夏から入院し、短い闘病期間で他界してしまったうえ、生前兄は自らの身の事をあまり私達に話さなかった為、人生を振り返り孤独だったのではと案じておりましたが、遺品から旅行や写真・料理など多くの趣味に興じていた事や、皆様との交流を通じとても充実した日々を過ごしていた事を知り、遺族として皆様への感謝の気持ちでたえません。

本日は兄の思い出話で盛り上がるようでしたら、草葉の陰から喜ぶことかと存じます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成二十六年 二月

偲ぶ会ご列席の皆様

海老沢 昭雄・文男
高橋 京子